

平成29年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」


事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【 千葉県 】

1 実践テーマ	【 I II III 】
2 実施対象者	<p>学校名 習志野市立秋津小学校</p> <p>対象学年 全校</p> <p>人数 259名</p>
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名 (体育、総合、道徳、社会、特活)</p> <p>② 行事名 ()</p> <p>③ その他 ()</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名 (1000か所ミニ集会)</p> <p>② その他 ()</p>
4 目標 (ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> ・共生社会の形成を目指し、他者を理解しようとする気持ちを育てる。 ・生涯を通じてスポーツに親しみ、スポーツの楽しさや感動を分かち合う気持ちを育てる。 ・ボランティア精神と温かいおもてなしの気持ちを育てる。
5 取組内容	<p>【スポーツ義足体験】</p> <p>LIXIL 主催の体験型の授業として、中京大学 池田樹生選手を講師として2時間展開で実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1時間目は5年生対象の実技 ・2時間目は4～6年生対象の講義 <p>という構成で取り組んだ。</p> <p>1時間目は、5年生全員が義足をつけ、歩行する体験を行った。池田選手が義足をはずし足に触らせてくれた際には、最初は緊張していた子供たちもすぐに打ち解けて、選手と会話を弾ませられるようになった。義足を初めてつけて立ち上がる時はうまく立てない児童が多かったが、それを見ていた周りの児童が声をかけたり手を貸したりして、補助する姿が見られた。池田選手や担当の方たちに自然にサポートしていただく姿も見られた。</p> <p>2時間目の講義では、義足をつけている障がい者の置かれている現状や課題について話していただいた。また、「義足をつけて競技で走るのはずるいか」等、児童が考えさせられる発問を織り交ぜていただいたことで、次につながる授業展開となった。</p> <p>特に、5年生は実技を経験し池田選手と関わりを持った後の講義であったため、より真剣に話を聞き、質問の内容が核心に迫っていたように感じた。</p>



	 <p>【3×3バスケットボール教室】 3×3「SELS. EXE」黒田裕先生、U18日本代表佐々木雄哉選手が所属する習志野高校バスケット部20名に来ていただき、90分間、全校児童対象で実施した。 選手やコーチの自己紹介の後、最初の20分間で、DVDを視聴しながら競技の紹介やルールについて学んだ。 そのあと、高校生による3×3のゲームを観戦した。その間、黒田先生に同時進行で解説を入れていただき、全学年の児童が真剣に観戦することができた。 次に、高校生3人と小学生5人の「3対5のゲーム」を2セット行った。最後には「高校生3人と教職員4人」の3対4のゲームを2セット行い、最高の盛り上がりとなった。 狭い空間でもゲームができるという利点を生かした会場の盛り上げ方を、黒田先生が中心となって実際に見せていただいたおかげで、1～6年の全ての児童が3×3の競技の楽しさを実感することができた。</p>
6 主な成果	<ul style="list-style-type: none"> ・オリンピック・パラリンピックで行われる競技への関心が高まった。 ・選手一人一人の努力はもちろんのこと、それを支えている人が周りにたくさんいること、チームとなってオリンピックを目指していることを実感することができた。 ・「障がいがある」ことを自然な形で受け止めることができた。
7 実践において工夫した点 (事業の特色)	<p>【義足体験】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の意欲を高め実感を伴う理解を目指し、講義だけではなく、実際に義足を装着して歩く体験ができる内容を取り入れた。身近にはいない、義足をつけている選手が講師である事業であったため、子供たちにとって、障がいに対する意識の隔たりが一気に縮まっていく様子が伝わってきた。 <p>【3×3】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5人制は身近で競技している人はいるが、3人制はいなかったため、90分間のプログラムを講師である習志野高校の顧問の先生にお任せした。3×3の楽しみ方を熟知しており、ご自身も現役選手であるため、観戦している児童と一緒に楽しむことができる展開となった。 <p>【食育との関連】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本校は今年度「食育推進校」に位置付けられていることと関連させ、6年生全員が「おもてなし献立」を作成し、給食メニューとして実施したことは有意義であった。
8 主な課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・上記の2つの事業は、共にとても有意義な内容であった。課題として、事前の打ち合わせが十分に取れない実状の中、HP等での情報を得たり学校からの要望や相談をさせていただいたりしたもの、細かな部分まで詰めることができなかったため、「講師任せ」の部分が大きくなってしまったことがあげられる。お互いの日程上、難しい面もあるため、「できることをできる範囲で」調整していくことが大切であることを感じた。 ・教科等との関連を念頭に、年間計画に組み込みながら計画することによって、より有意義な教育活動となると思われる。
9 来年度以降の実施予定	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度と同様に、競技者や競技関係者を講師として招き、その競技がより身近なものとなるような実践を計画する。 ・習志野市は水泳競技のキャンプ予定地であるため、その国に関連した学習内容を検討する。 ・習志野市を訪れる海外の観光客が増えることが考えられるため、「おもてなし」の気持ちを形に表せるような取り組みを検討する。